

1973年よりインドシナ戦争の取材に入り、ラオスでは西側最後のジャーナリストとしてただ一人撮影を続け数々の歴史的瞬間を記録した竹内正右氏の写真展。激動のラオス現代史を貴重な写真で振り返る。



竹内正右 写真展

ラオスは戦場だった

Photo Exhibition Laos as Battlefield by Shosuke Takeuchi

展示期間 2011年10月6日(木)～11日(火)
時間 12:00～19:00 9日(日)・10日(祝):～18:00
10月8日(土):講演会あり(詳細下記)
会場 早稲田奉仕園 早稲田スコットホールギャラリー(地図裏面)
入場料 無料

《竹内正右 講演》 ラオスは戦場だった 第5弾
「バンパオ将軍の死—インドシナ戦争の真の終焉」

日時 10月8日(土)

13:00～14:00 資料映像の無料上映

14:30～17:00 講演と記録映像「バンパオ将軍の伝統葬」上映(有料)

会費 1,000円(資料費込・当日受付にて)

申込 講演会参加の方は、早稲田奉仕園までご予約下さい

《講演内容》

ラオスでアメリカが、そして旧ソビエト、中国、北ベトナムが行った秘密戦争の真実そして膨大な犠牲者を出したモンの世界を追い続ける竹内正右氏が、今年アメリカで亡くなったモン特殊部隊の元リーダー・バンパオ将軍の伝統葬を取材しました。

今回はその記録映像を上映し、モン・コミュニティにとっての将軍の死の意味、秘密戦争の実際、インドシナ戦争が今現在の社会に与えている事実など、米ソ冷戦の最前線であったラオスを新しい資料に基づき報告します。

竹内正右 紹介 フォトジャーナリスト。1945年旧満州吉林生まれ。1970年に早稲田大学を卒業したのち、1973年～75年にラオス・ベトナム・カンボジアに相次いで滞在。1975年には、ビエンチャン陥落の瞬間を取材する。1975年～82年西側最後のジャーナリストとしてラオス取材を行う。『ラオスは戦場だった』(めこん2004)、『蒙の悲劇』(毎日新聞社1999)、ほか著書多数。

お申し込み・
お問い合わせは

財団法人 早稲田奉仕園

TEL

03-3205-5403

URL

<http://www.hoshien.or.jp>

Mail

program@hoshien.or.jp